



第1 医療部副部長
兼脳神経内科部長
兼認知症疾患医療センター長

藤本 正也
ふじもと まさや

進化する脳梗塞急性期治療

（のうこうそくきゅうせい）

脳の血管が詰まるのが脳梗塞です。「詰まった血管を通してあげれば治る」という考えにより、脳梗塞急性期治療として血栓溶解剤（rtPA）やカテーテル治療（血栓回収術）が普及してきました。しかし、脳は血流が途絶えてから数時間で壊死に陥り、回復不能になります。早期に血管を再開通させないと無効なばかりか、既に壊死した脳へ一気に血流が再開することで、脳から大出血する出血性脳梗塞を起すことがあります。そのため最終健常（発現時ではなく、最後に無事な姿を確認した時刻）から4時間30分以内での治療開始が推奨されていました。

また、病状の進み方は人それぞれであり、発症から1時間であっても手遅れとなる患者さんいれば、時には1日経っても急性期治療で効果が得られる患者さんもいます。このようなケースを解明するため、MRI（磁気共鳴画像診断）などを駆使した研究が進められました。その結果、今では最終健常から24時間まではカテーテル治療が行え、最終健常時ではなく発現時から4時間30分以内ならrtPAの投与ができるようになりました。ただ、これはのんびり受診しても大丈夫、ということではありません。脳梗塞かなと思ったら、①顔が非対称でないか、②前へならえをして（させて）片手だけ落ちないか、③言語障害がないか、の3点を積極的に確認して、一つでも当てはまれば、脳梗塞の疑いがありますので、迷わず119番をお願いします。

市立総合病院 薬剤部
部長兼臨床研究管理室長

正木 銀三
まさき ぎんぞう



バイオ医薬品と バイオシミラーについて

皆さんはバイオ医薬品をご存じでしょうか？ 遺伝子組み換え技術や細胞培養技術を用いて製造したタンパク質を有効成分とする医薬品です。これまで治療薬のなかった病気や、従来の医薬品では患者さんの満足度が不十分だった病気への効果が期待されています。糖尿病治療、貧血治療、がん治療、現在では乾癬や関節リウマチ治療にも使われています。

社と別の会社でも全く同じ主成分を作ることができる後発医薬品があります。バイオ医薬品にも国内で既に医薬品として承認されている製品と同等の品質、安全性、有効性を示す医薬品としてバイオ後続品（バイオシミラー）があります。

しかし、後発医薬品のように全く同じ薬を作ることにはできませんので、臨床試験、品質の試験などで、先行バイオ医薬品と同等の効果と安全性が証明された製品のみ販売することができます。また、発売後も副作用の発現状況や効果を確認する調査が行われます。

バイオ後続品（バイオシミラー）の活用は、患者さんの経済的負担の軽減のみならず、日本の医療費の抑制にもつながります。

価格は高いという課題があります。一般医薬品は先発医薬品の製造会

